

単元構想シート

単元（題材）で授業を構想するにあたって、道すじに沿って構想できるように、神奈川県立総合教育センターでは、「単元構想シート」を活用しています。単元（題材）全体の「児童・生徒の学びのプロセス」をデザインすることで、一貫した指導の流れをつくることができます。

【記入例】

中学1学年 数学
「資料の整理と活用」

目標実現のために、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」4つの観点から評価規準を設定します。教科によって観点が異なります。

記録に残す評価をしない時間も考えられます。

「次」ごとに振り返りを記入する欄を作りました。振り返りを次の授業に生かしましょう。

単元を通して、評価の場面を決めるようにします。新しい知識を毎時間扱っている場合でも、めざす姿が実現した状況が見られると考えられる時間を評価の場面に設定しています。

② 各教科の観点に即して、単元（題材）目標が実現した状況を想定して、評価規準を設定します。

① 学習指導要領の教科・科目の目標や、児童・生徒の実態、教材の価値等を踏まえて、単元（題材）で身に付けさせたい力を明確にします。

単元構想シート		教科（ 数学・中学校1年 ） 単元名（ 資料の整理と活用 ）			
単元（題材）の評価規準	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	単元（題材）目標
	様々な事象についての資料を収集して整理したり、ヒストグラムや代表値などを用いてその傾向を読み取ったりすることに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。	ヒストグラムや代表値などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を見通しをもって論理的に考察し表現したり、その課程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	資料を表やグラフに整理したり、代表値を求めたりするなど、技能を身に付けている。	ヒストグラムや代表値の必要性と意味、相対度数の必要性と意味、誤差や近似値の意味などを理解し、知識を身に付けている。	目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を読み取る能力を培う。

次	時	観点ごとの評価規準				評価の方法 Cの児童・生徒への手立て	主たる学習活動	指導上の留意点 ポイント
		数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解			
1	1						・絵はがきの縦の長さを測り、測定値を比較する。また、測定値の誤差の範囲について調べる。	近似値の活用場面を伝え、必要性和意味を理解させる。
	2			測定値を有効数字の桁数をもとに、 $a \times 10^n$ の形に表すことができる。		【記述の確認】 具体例を示して、測定値の表記に慣れさせる。	・有効数字の考え方をもとに、近似値を $a \times 10^n$ の形に表す。	
2	3				度数分布表の意味と表し方を理解している。	【記述の確認】 各気温がどの階級に該当するかを確認させる。	・「水戸市の12月の平均気温が、過去に比べて上昇している」という新聞記事を題材としてとりあげ、度数分布表からその傾向を読み取り、理解する。	度数分布表の書き方と用語を丁寧に説明する。
	4		ヒストグラムなどを基にして、資料の傾向を読み取ることができる。			【発言の確認】 階級の幅の違うヒストグラムを比較させ、気付いたことをまとめさせる。	・前時の度数分布表をヒストグラムに表し、傾向を読み取り説明する。 ・階級の幅を変えたヒストグラムを比較し、違いを読み取り説明する。 ・複数の度数分布多角形を用いて資料の分布の様子を比較し、違いを説明する。	ヒストグラムと度数分布多角形を比べ、それぞれの資料の整理のよさを比較させる。
	5		ちらばりの程度を表すのに、最大値と最小値に着目して考えることができる。			【発言の確認】 範囲によって、資料の傾向の違いが見られることに気付かせる。	・年平均気温が同じ2つの都市の1月から12月までの各月の平均気温の資料をもとに、度数分布多角形を作成し、2つの都市の気温のちらばりの様子を調べ、範囲を考慮しながら、違いを説明する。	年度ごとの比較をするのに、度数分布多角形を用いると推移の様子がよくみえることに気付かせる。
	6				代表値の必要性と意味を理解している。	【行動の確認】 傾向の読み取りに平均値以外の代表値を用いる例を多数示す。	・バスケットボール選手の身長を度数分布表にした資料から、選手の身長の平均値を求める。	ヒストグラムと代表値の関係について、十分時間をかけて考察させる。

③ 単元（題材）の評価規準を基に、具体的な評価規準を設定します。
観点ごとの評価規準が実現する児童・生徒の姿を想定し、評価の場面を決めます。1単位時間内に全ての観点を盛り込むのではなく、単元（題材）全体を通して、バランスよく配置します。
これは、めざす児童・生徒像の実現に向けて、児童・生徒が学習を積み重ねていく「学びのプロセス」でもあります。

④ 授業のどの場面で、どのように児童・生徒の発言や行動を見取るのかを計画します。
「努力を要する」児童・生徒への支援も考えます。

⑤ 評価規準を実現するための学習活動を考えます。
単元（題材）を通して学習活動につながりがあるか、段階を踏んでいるか等を意識して組み立てます。また、評価の方法に沿った活動を位置づけます。

学習活動の設定には、評価規準と評価の方法が深く関わっています。学習活動は想定した児童・生徒の姿が実現するためのものです。児童・生徒の姿を想定し、評価規準と評価方法と学習活動を一つのものとして計画を立てましょう

教材の価値とは、その単元で扱う意義、教材の内容の特色、児童・生徒から見た親しみやすさ、などのことです。

単元（題材）目標と評価規準の設定にあたっては、児童・生徒の実態を学年・教科内で共有することが大切です。学年会や教科会等で確認するとよいでしょう。

思考・判断・表現の評価のためには、言語活動を位置付ける必要があります。

授業に先立って、留意点を整理しておきましょう。

単元（題材）による授業構想

Q&A

Q. 学習指導案とは違うのですか？

A. 一般的に活用している学習指導案の「指導計画」にあたる部分を、見直しをもって計画できるよう作成したものが、この単元構想シートです。

学習指導案は、単元（題材）の目標を実現するために、どのような指導をしてどのように児童・生徒を評価するかについて、一定の形式にまとめたものです。いわば、授業の設計図であり、その点は、この単元構想シートも同じです。

研究授業等の際の学習指導案として、児童・生徒の実態や教材観・指導観、本時の展開などを単元構想シートの前後に加えて活用することもできます。

Q. 教科によって、書式を変えてもよいのですか？

A. 教科によって、評価の観点が変わりますから、教科に合わせて変更してください。大切なことは、授業づくりの道すじを押さえて、指導のプロセスを構想することです。

総合教育センターでは、単元構想シートの様式と併せて、教科ごとの記入例を作成して、ホームページ上で公開しています。

<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/kadaiSnavi/>
(総合教育センタープロジェクトのページ 「授業改善プロジェクト」)

Q. 「指導と評価の計画」とは違うのですか？

A. 単元（題材）ごとの評価規準から指導の計画を構想するシートですから、これは単元ごとの「指導と評価の計画」といえるでしょう。

また、年間指導計画は、単元ごとの指導の計画を一つにまとめたものですので、この単元構想シートを活用することができます。

Q. 実際に作成すると時間がかかりそうですが・・・

A. これは、新しい単元（題材）について構想を書き留めるものです。学年や教科内で目の前の児童・生徒に合わせた指導計画となるように相談し分坦して作成することもできます。単元（題材）の評価規準については、国立教育政策研究所等の資料などを参考にするとよいでしょう。

単元（題材）による授業構想とは・・・

「良い授業」を実現するためには、1単位時間の授業のことだけ考えていたのではうまくいきません。そこで、「単元（題材）による授業構想」が必要となります。

「単元（題材）による授業構想」とは、学習指導要領にある各教科・科目の目標や内容を実現するために、ある程度のまとまりを単元として授業を考えることです。各教科・科目における目標の実現は、1単位時間の授業で達成できるものではありませんから、内容のまとまりを単元として、単元（題材）を通して力が付けられるように構想することが必要なのです。

さらに、「単元（題材）による授業構想」において、児童・生徒の学びを想定することで、効果的な学習活動を位置付けることができます。

* 単元とは、各教科の内容をある程度のまとまりで捉えたものです。学習指導要領の内容から、まとまりを考えると良いです。また、教科によっては「単元」ではなく「題材」として、内容のまとまりを捉えることもあります。

授業づくりの道すじ

① 単元(題材)目標の設定

学習指導要領にある指導すべき内容や、児童・生徒の実態等から、単元（題材）で身に付けさせたい力を決め目標を設定します。

また、単元（題材）目標の設定にあたっては、年間指導計画の中での各単元（題材）の位置付けや単元間の関連性を理解し、適切な内容となるよう配慮します。

② 評価規準の設定

単元（題材）目標が実現した状態を想定し評価規準を設定します。その際には、どのような学習状況を実現すればよいのか、観点ごとに具体的な児童・生徒の姿を想定するようにします。

③ プロセスの設定

観点ごとの評価規準は、1単位時間に全ての観点を盛り込むのではなく、単元（題材）全体の中でバランスよく配分することが重要です。

単元（題材）を通して、児童・生徒がどのように学習を積み重ねていくのか、そのプロセスを考えて評価規準を位置付けるようにします。

④ 評価方法の設定

どのように児童・生徒の思考や発言・行動を見取るのか、事前に決めた上で学習活動を構想することが必要です。

学習活動のどの場面で児童・生徒の変容を見取るのか、また、努力を要する状況の児童・生徒への支援をどうするか、事前に想定し、計画的な評価につなげます。

⑤ 学習活動の設定

想定した姿が実現できるように学習活動を設定します。その際には、評価規準と評価の方法と学習活動を一つのものとして計画を立てます。